

地理空間データ分析の正誤表

読者さまへ

多くの誤りがありましたことを深くお詫びいたします。

著者

第1刷

箇所	誤	正
p.11 下から 8 行目	の準拋楕円体は	準拋楕円体は
p.15 上から 1 行目	ここで、colorRampPalette()は	ここで、colorRampPalette()は
p.35 下から 4 行目	次に、grDevice パッケージ	次に、grDevices パッケージ
p.40 図 2.24 のキャプション	spplot()	bubble()
p.57 上から 5 行目	の spTransfrom()は幾何変換を	の spTransform()は幾何変換を
p.97 下から 8 行目	ある区域に隣接した区域を 1 次隣接としたとき、その 1 次隣接区域にさらに隣接する区域を 2 次隣接くいきという。そして、さらに 2 次隣接区域に隣接する区域を考えていく。これを一般化して k 次隣接区域と呼ぶ。この k 次隣接区域から近隣リストを作成する。 k=3 の場合の近隣リスト nc.knn.nb を得た。knearneigh() は、k 次隣接区域の隣接関係を計算するコマンドである。	ある区域から最も近い区域を最近隣地区または第 1 階近隣地区とする。2 番目に近い地区は第 2 近隣地区である。これを一般化して、k 階近隣地区と呼ぶ。この k 階近隣地区から近隣リストを作成する。 k=3 の場合の近隣リスト nc.knn.nb を得た。knearneigh() は、最近隣から k 番目までの近隣関係を計算するコマンドである。
p.98 図 3.9(c)のキャプション	k 次隣接	k 階隣接
p.101 下から 13 行目	$I_i = \sum_i^n I_i$	$I = \sum_i^n I_i$
p.104 下から 1 行目	spDistN1()は距離を計算するコマンド	spDistsN1()は距離を計算するコマンド
p.135 上から 3 行目	ら変数の名前を変更することはできない。grah.data.frame()に、	ら変数の名前を変更することはできない。graph.data.frame()に、
p.160 上から 7 行目	最適なバンド幅は約 1.67 と計算された。次に、同様に	[削除]

箇所	誤	正
	gwr.guass()や gwr.tricube()を試行する。	
p.162 上から1行目	grw()による GWR 分析の実行結果は	gwr()による GWR 分析の実行結果は
p.171 下から5行目	ケージに依存するパッケージは, rgal パッケージや	ケージに依存するパッケージは, rdgal パッケージや
p.172 上から6行目	国勢調査を含み	国勢調査を含み
p.230 右段上から8行目	grDevice ... 35 grDevices ... 17	grDevices ... 17,35
p.231 左段上から16行目	rgal ... 171 rdgal .. 4,11,57,172,186,198,219,221-223	rgdal .. 4,11,57,171,172,186,198,219,221-223
p.232 左段下から1行目、右段上から1行目	colorRampPalette() 172 colorRampPlalette() ... 15	colorRampPalette() 15,172
p.233 左段上から17行目	grah.data.frame() ... 135 graph.data.frame() ... 136	graph.data.frame() ... 135,136
p.233 左段上から25行目	grw() ... 162 gwr() ... 160	gwr() ... 160,162
p.234 右段	spTransform() ... 11, 85 spTransfrom() ... 57	spTransform() ... 11, 57, 85
p.234 右段下から21行目	spDistN1() ... 104 spDists() 207 spDistsN1() .. 40,207,208	spDists() ... 207 spDistsN1() ... 40, 104, 207, 208,

第2刷

箇所	誤	正
p.19 下から4行目	乳幼児突然死症候群	乳児突然死症候群
p.40 上から7行目	spplot()を使う場合は, layout.scale.bar()が利用可能である。	[削除]